

02 色彩構成の基礎

1 構成とは

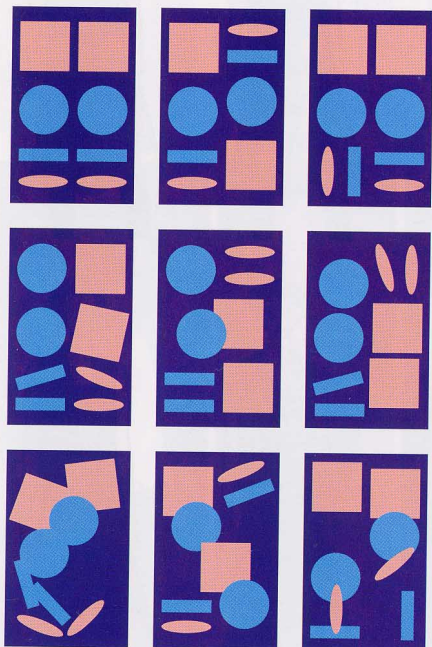
デザインや絵画、彫刻などの美術作品において、構成(コンポジション)とは形や色の配置のことを言います。色彩に視点を置いた構成は、特に「色彩構成」とも言います。

配色は単に色の組合せの問題ですが、色彩構成は、形やその大きさ、配置される位置なども重要な要素になります。同じ配色でも、形や大きさ位置が異なると全く異なった構成になってしまいますから、色彩だけでは具体的なものとしてデザインすることができません。形があっ

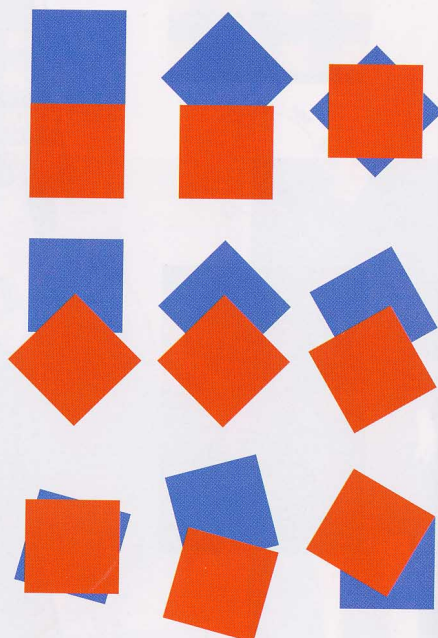
てはじめて何らかのものになります。形があれば、当然その大きさがあり、二つ以上の形が組み合わされると、その大きさの違いが現われます。また、同じ形でもそれが置かれる位置によって異なったデザインになります。(4-27a,b)

ファッションデザインやコーディネートにおいても、全く同じ色の配色であっても、アイテムのどの部分にどの色をもってくるか、どのアイテムにどの色をもってくるかによって、全体の印象はまるで違ったものとなります。したがって、構成についての基本的な考え方や方法をしっかりと理解しておく必要があります。

4-27a



4-27b



同じ形態、色彩を使っても構成によってデザインは大きく変化する。

2 安定と変化

構成を考えるための視点として「安定」と「変化」をあげることができます。

安定に視点を置いた構成は、性格の似ている要素を組み合わせることで得ることができ、穏やかで静かな印象や全体的なまとまり感を伴います。色彩では、色相やトーンの似ている色の配色が安定感のある配色となります。

変化に視点を置いた構成は性格の異なった要素を組み合わせることで得られ、まとまり感には欠けますが印象の強さや動きのあるダイナミックな構成になります。色彩では、対照的な色相やトーンによる配色に、変化の要素を見ることができ

ます。(4-28) 一つの構成の中には、必ず「安定」の要素と「変化」の要素が混ざり合っています。安定に視点を置いた構成とは「安定の要素を多くし変

化の要素を抑えた構成」、変化に視点を置いた構成とは「変化の要素を多くし安定の要素を抑えた構成」であると言えます。

安定の要素が多すぎると、変化に乏しく面白みのない構成に、変化の要素が多すぎると、統一感がまるでなく各要素がばらばらに主張し、まとまりのない構成になってしまいます。安定に視点を置くときも適度に変化の要素を、変化に視点を置くときも適度に安定の要素を、加えたり残したりすることが必要です。(4-29)

色彩に限って考えれば、色相を安定(同一色相や類似色相の配色)にしたらトーンには変化(対照トーンの配色)を、トーンを安定(同一トーンや類似トーン)にしたら色相は変化(対照色相や補色の配色)させるといった工夫が必要です。

4-28 配色における安定と変化



4-29 構成と配色における安定と変化

安定と変化のバランスが必要である

